

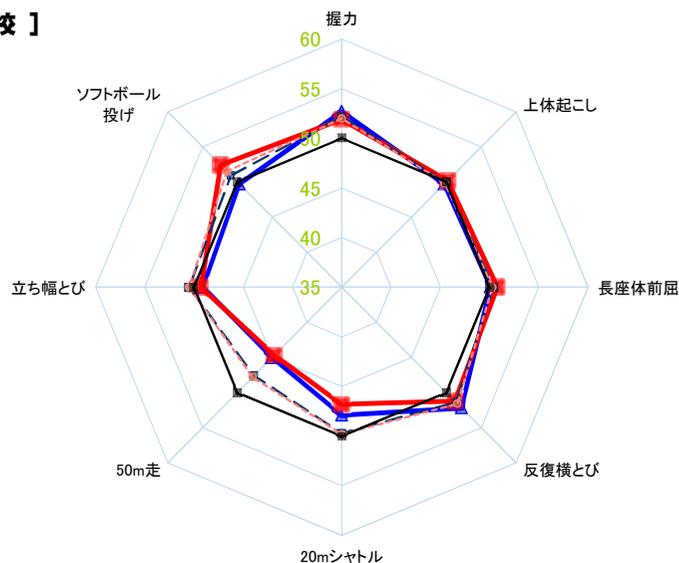
## 1 調査の概要

- (1) 目的 児童生徒の体力・運動能力、運動習慣などを把握・分析し、学校における体育・健康などに関する指導などの改善に役立てることを目的とする。
- (2) 実施学年 小学校・義務教育学校第5学年児童、中学校2学年・義務教育学校8学年生徒
- (3) 内容 ①実技に関する調査  
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン（中学生は持久走と選択）、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（中学校はハンドボール投げ）
- ②質問紙調査  
運動習慣、生活習慣等

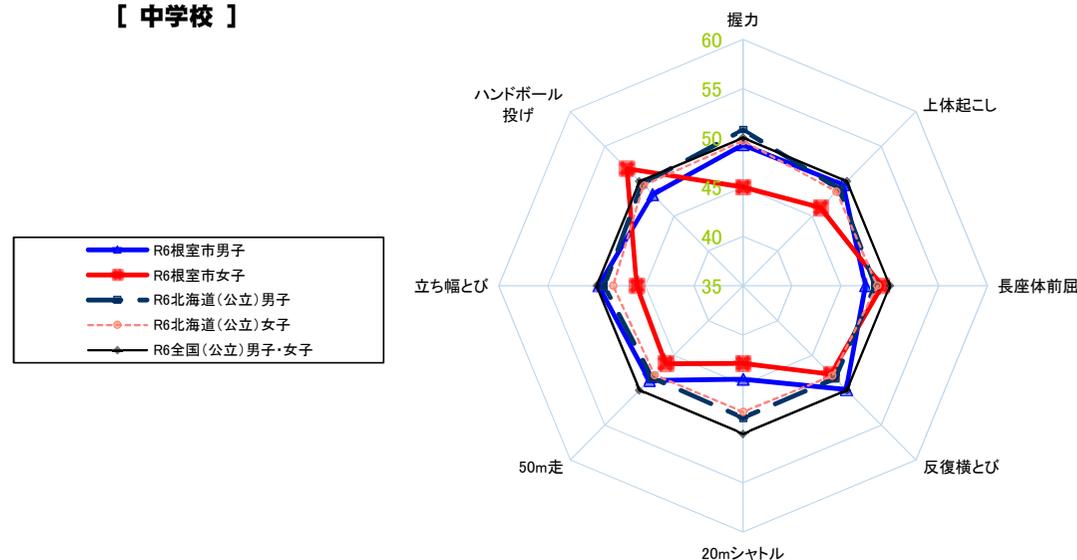
## 2 調査の結果

### (1) 全国平均を50とした時のレーダーチャート

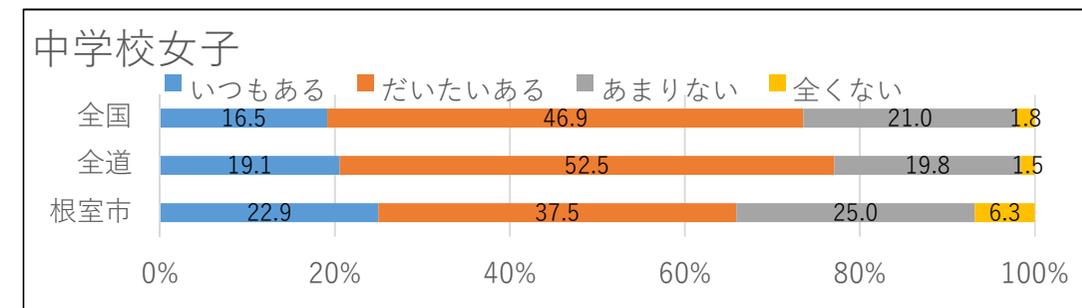
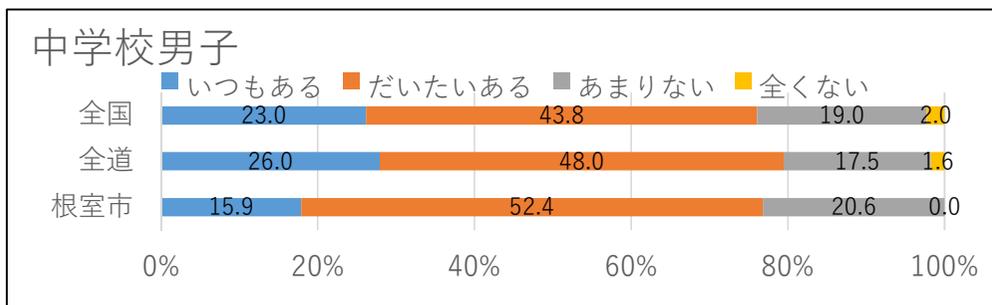
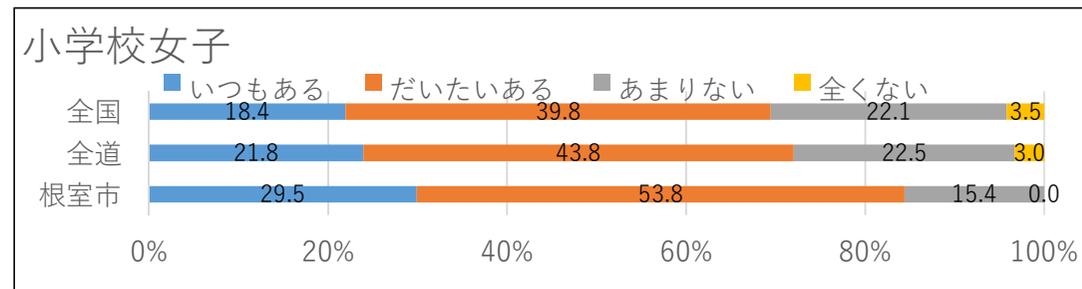
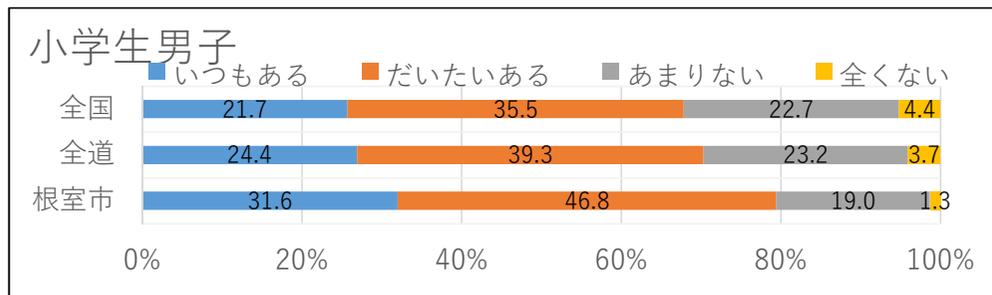
#### 【 小学校 】



#### 【 中学校 】



(2) 児童生徒質問紙調査 体育の授業で、ICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



(3) 全体の傾向

- ・小学校は男女ともに握力、長座体前屈、反復横とびで全国平均を上回った。中学校は男子で上体起こし、反復横とび、立ち幅とびで全道平均を上回り、女子ではハンドボール投げで全国平均を上回った。体力合計では小中男女ともに前年度を上回った。
- ・小学校では、タブレットなどのICTを使った学習で「できたり、わかったり」することがいつもあると回答した児童の割合が全国及び全道を上回った。中学校では、男子が全国平均を上回り、女子が全国平均を下回ったものの、「できたり、わかったり」することが「いつもある」と答えた中学女子の人数は全国・全道を上回った。

3 今後の取組について

- 体育専科教員を通して授業改善の推進を図るとともに、教員の更なるICT教材の活用能力の向上に向けた研修機会の確保に務める。
- 各校で年間を通じた体力向上の取組を外部へ広く周知するとともに、活動の継続を図る。
- メディアに触れる時間の長さが課題であることから、学校・家庭・地域で連携した取組を推進していく。